

医療法人 佐藤病院の歩み

初代栄七・二代目善一郎

初代院長佐藤栄七は明治二十年福島県に生まれました。東北帝大医学部を卒業後、福島県郡山の太田病院に勤務その後上京



初代 栄七



二代目 善一郎

二代目院長佐藤善一郎は新潟大学医学部卒業後慶応大学病院内科にて勤務。のちに栄七の跡取りとなりました。

大正八年創業

佐藤栄七は医学部を卒業後、大正八年二月、横浜の南区日枝神社の近くに土地を見つけ、大正八年十二月一日に佐藤病院を開業しました。



大正 11 年

この写真は、大正十一年ころのもので当時の佐藤病院のスタッフの写真です。後列右から二人目が院長栄七です。女性は着物姿で時代を感じます。子供の姿も多く、ほとんど家族写真のようです。

大正から昭和へ二度の焼失

大正十二年九月一日関東大地震がおこり、病院も自宅も炎上してしまいました。焼け跡に病院を再建、診療を続けました。しかし昭和十六年には、太平洋戦争が勃発しました。戦火は拡大し、昭和二十年になると本土爆撃がより激しくなり、ついに五月二十九日の横浜大空襲にて病院は直撃弾をうけ再度焼失しました。昭和二十一年十二月に再々建し二十床の病院となりました。写真は再々建後の正月時の建物と当時のスタッフです。



再々建時の病院(20床) 昭和 22 年



当時のスタッフ

医療法人化

昭和二十五年に個人病院から医療法人に経営形態を変更しました。昭和二十六年に一部増改築工事施行六十八床となりました。

診療所・産院開設

昭和二十七年には日枝小学校隣地にお三宮診療所を開設その後、同診療所はお三宮産院となり地域住民の産院としての評判も良く盛況となりました。



産院スタッフ

昭和から平成へ

昭和三十年 増床工事(七十二床)
昭和四十年 本院第一期増床工事完成
救急指定病院

昭和四十六年 本院第二期工事完成
昭和五十七年 病院新築二期工事完成

昭和六十三年 病院新築第二期工事完成
平成十二年 療養型病床工事完成

さとう病院訪問看護ステーション併設
さとう病院居宅介護支援センター併設
平成二十二年 回復期リハビリテーション病棟完成
平成二十六年 新病棟完成(百十六床)

報恩感謝

当院裏の花壇の中に初代栄七院長の胸像があります(昭和十二年制作)、この胸像の裏には栄七の座右の銘である報恩謝(ほうおんかんしゃ)の文字が刻んであります。



これは今の自分があるのは、たくさんのおかげであり、その恩に報いるような生き方をしたいという意味です。時代は令和になりましたが、当院職員は、これからもこの言葉を胸に患者さんと接しより良い病院に発展するよう努めます。

